

## 第2回核融合炉・遮蔽定数W. G. 議事録

1. 日 時 昭和56年12月18日(金) 13:30~17:30
2. 場 所 原研本部第5会議室
3. 出席者 15名(順不同, 敬称略)  
中沢, 井口(東大), 菊地, 関, 長谷川, 山野, 大山(原研),  
高橋(阪大), 川合(NAIG), 大村(石川島), 中田(川重),  
川瀬(ISL), 松本(三井造船), 佐々木(FBEC), 南(富士通)

### 4. 配布資料

- |          |  |
|----------|--|
| FS-81-7  | 第1回 W. G. 議事要旨                                       |
| FS-81-8  | DDX sub WG 議事メモ                                      |
| FS-81-9  | DDX の作製 (南)  |
| FS-81-10 | FNS Hybrid Fusion Blanket Assembly ベンチマ<br>ーク解析 (山野) |

### 5. 議 事

#### 5.1 前回議事要旨確認及び経過報告等

前回議事要旨(FS-81-7)を確認了承し, 又 DDX sub WGの検討経過を議事メモ(FS-81-8)により中沢委員が説明した。又, NEA データバンク出向から戻られた長谷川明氏が紹介され, 本 W. G. に参加して戴くこととなった。

#### 5.2 FAIR-CROSS による DDX 作製について (南)

DDX sub WG で仕様検討後, 作製された DDX 作製コードの概要, 特に原版となった FAIR-CROSS コードからの改良点, 図形出力法, Li-7 についての入出力例を含む計算結果等につき, 資料(FS-81-9)を用いて詳しく説明された。

なお, 今後はこの DDX 作製コードを用いて 14 MeV 中性子に対する Total DDX を実測値と比較し易いように出力追加を行なっていく方針が確認された。又, DDX の実測値データについても収集評価グループとコンタクトしていくこととなった。

### 5.3 遮蔽定数 W. G. 経過報告 (山野)

軽核のベンチマーク解析対象として、原研 FNS の核融合模擬ブランケットベンチマーク実験 (Li, U-Li, Li-C, U-Li-C の 4 体系) を選び RADHEAT-V 4 システム (特に FAIR-CROSS 及び DIAC) により解析した結果が資料 (FS-81-10) により報告された。

核データは、主として ENDF/B-III を採用しているが、計算結果は関委員他により文献報告されている ANISN コードによる結果とほぼ同じであったこと、全体として C/E は  $\pm 20\%$  以内であったがグラファイト体系内の U-235 反応率の一致が悪いことが報告され、後者については高エネルギーにおけるグラファイトの非弾性散乱断面積及び熱中性子群の取扱い方に問題があるのではないかと議論された。又、この問題に関連して、Cd カバーした実測データの必要性が要望された。

### 5.4 来年度の作業計画について

DDX sub W. G. は今年度作製した DDX 処理コードを用いて予定通り実測値との比較作業に入ることが合意された。

遮蔽定数 W. G. は従来行なってきた JENDL-2 の積分テストを収束させることを目標に作業を行なうことが了承され、具体的なベンチマーク試験内容 (軽核及び鉄等を対象、或いは NEA-CRP の遮蔽ベンチマーク解析を JENDL で行なうなど) については更に検討していくこととなった。

### 5.5 その他

核データセンターの活動状況 (JENDL-3 作製開始予定, Fe, Ni, Cr データの最終評価, 2次ガンマ線関係の活動など) が菊地委員より報告された。